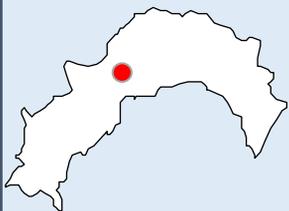


12 農事組合法人ヒューマンライフ土佐（高知県越知町）

産地の概要



品目

ミシマサイコ、サンショウ、ダイダイ、他5品目

栽培面積

計101ha

（ミシマサイコ13.5ha、サンショウ52.4ha、ダイダイ35.2ha）

（令和5年度時点）

栽培者数

生産者 385名

取組体制

株式会社ツムラ（以下、ツムラ）（実需者、栽培技術指導）
高知県（生産技術の検討・実証）
越知町（町内生産者との調整、就農者の確保）

特徴

30年以上にわたりツムラと契約栽培。越知町を中心に薬用作物の生産を拡大し、生産者への栽培管理や指導、検品も一任される存在。

取組の背景

越知町は農地の多くが傾斜地に位置する条件不利地で、農業者の減少や高齢化により耕作放棄地が拡大したことから、傾斜地でも栽培可能であり、農閑期である冬場の収入源となり得ることに着目し、昭和60年からミシマサイコの栽培を開始。平成2年に「農事組合法人ヒューマンライフ土佐（以下、ヒューマンライフ土佐）」を設立し、ツムラとの契約栽培により生産者の安定した収入を確保。高知県内のみならず、香川県や愛媛県まで栽培地域を拡大。



▲ミシマサイコのほ場

品目選定理由

- ・当初はシャクヤク、トウキ等も栽培していたが、独自に栽培技術を開発し収益性の面からミシマサイコが定着。平成2年からダイダイ、平成14年からサンショウの栽培を開始。
- ・傾斜地で栽培可能であり、収穫物が軽量なため高齢者でも容易に生産が可能。

課題

- ・病害に対して有効な農薬が少ないことや、新たな病害に使用できる農薬がない
- ・需要に応えられていない。特にサンショウの生産を拡大したいが、収穫期の人手が足りない

主な取組内容

①種苗

- ・ミシマサイコはツムラから契約面積に応じて必要量を無償提供
- ・サンショウやダイダイはヒューマンライフ土佐が手配

②栽培管理

- ・栽培暦を配布し、新規生産者には技術指導や勉強会を月1回開催
- ・農薬・肥料投与に関する「肥培管理」「農薬管理シート」の記録を徹底。農薬はツムラが指定したもののみ使用。農薬登録の適用拡大のための実証試験を実施中
- ・ミシマサイコは倒伏防止と根の肥大促進のため、年4回程度摘芯



▲ミシマサイコの摘芯

③加工・調製・集出荷

- ・ミシマサイコは収穫後、生産者が洗浄し、茎と根を切り分け、乾燥ヒューマンライフ土佐で検査しツムラに納品
- ・サンショウは生産者が生実を収穫して持ち込み、ヒューマンライフ土佐で乾燥30日程度保管後、調製機で種と果枝を除去し、果皮を袋詰めしてツムラに納品



▲収穫前のサンショウ

- ④その他 ・町が地域おこし協力隊を募集し、2名の新規就農者を確保。離農者のほ場を引き継ぎ生産

成果

【取組による定量的な成果】

ダイダイ面積拡大 H30：27ha → R5：35ha 県外生産者数増加 H30：132人 → R5：162人

今後の展開

- ・令和5年度より新たに栽培指導員を配置し巡回指導の体制を強化
- ・平成20年に生薬の持続可能な栽培に向けて、栽培地上流の水源地に位置する森林の健全化を図るために、ヒューマンライフ土佐、ツムラ、高知県、越知町の4者で「協働の森パートナーズ協定」を締結。以降、16年にわたり継続された協定は令和6年に、地元中学校での教育プログラムの拡充を図ることを目的とし、公益財団法人高知県牧野記念財団が新たに参画した5者間締結に進化